

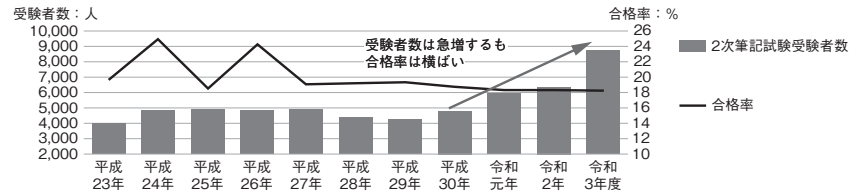
特集2 幻の超高得点答案を探せ! 2

第1章

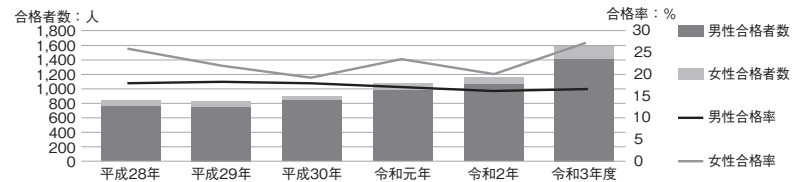
令和3年度2次試験の概況
大幅なスケジュール変更と受験者急増で激戦

満点答案ハンタープロジェクトメンバー
池田 雄紀 / 黒澤 優 / 須々田 智昭 / 山本 哲也
中小企業診断士

図表1 2次筆記試験受験者数と合格率の推移



図表2 男女別の合格者数と合格率の推移



出所：図表1、図表2とも一般社団法人中小企業診断協会の統計データより筆者作成

池田 雄紀
2代目満点答案ハンター。パラルレルキャリアの開拓を目指し、若手複業人材集団「BRMZ」の立ち上げに参画。

黒澤 優
3代目満点答案ハンター。令和2年度合格。2050年を見据えたサステナブルな企業活動のあり方を模索中。

須々田 智昭
3代目満点答案ハンター。令和2年度合格。本業と診断士の副業と育児（3歳息子）に日々奮闘中。

山本 哲也
初代満点答案ハンターリーダー。平成30年度合格。本業のお掃除屋&書店経営と副業の新規事業開発が専門。

1 プロローグ

今回は、本当に油断をしていた——。

2022年2月。窓を全開にした当社の会議室は、冬の空気に加え、備え付けの100インチスクリーンのおかげで、北京オリンピック・パラリンピックのスタジアムとすっかり一体化していた。そこへ、突然の侵入者である。

「ボス〜。月刊キギョウ……何とかからお電話です。マウンテンがどうだとか……。何かの売り込みですかね？ お断りしましょうか？」

今年も来てしまったか——。診断士2次試験の満点 or 超高得点答案を全国から探し出し、分析して合格の秘訣を探る「満点答案ハンタープロジェクト」。一昨年は、平成24年度2次試験、事例Ⅱの満点（100%）答案を本誌で紹介することができた。昨年は、超高得点答案は見つけ出せたものの、満点答案は発見することができなかった。

しかし、今年は編集長から連絡もなく、昨年くらいから巷では「診断士試験がなくなる!」なんて噂が広まっていたこともあり、「例のプロジェクトも昨年で終わりだったんだな……」とすっかり安心して、この北京大会を楽しもうとオフィスで寛いでいたのである。そんな矢先の連絡だった。

「診断士試験がなくなるわけじゃないでしょ！ 特集は6月号掲載予定です。今年こそ、満点答案を見つけ出してくださいね！」

100インチスクリーンからは、北京の銀世界はすっかり消え、満点ハンターたちの顔が並ぶWeb ミーティングへと切り替わっていた——。

2 激戦の令和3年度2次試験

ご存じのとおり、令和3年度1次試験は東京オリンピック・パラリンピックが順延され、例年より3週間ほど、令和2年度と比べると1ヵ月半ほどの対策期間には変化がなく、80日程度となった。

令和に入ってからの変則日程は、受験生、特に再受験生のモチベーションにどのように影響したのだろうか。2次試験合格率は、18.3%→18.4%→18.3%と令和に入り、横ばいである。一方で受験者数は、コロナ禍による特例等の影響もあり、6千人→6.4千人→8.7千人と年々増加している。

つまり、多くの中小企業診断士が誕生していると同時に、多くの不合格者も生んでいる事実があ

り、近年では稀にみる激戦であったと言える。

また、今回は女性の合格者数が史上初めて100人を突破し、一気に172人となった。前年比では、175.5%である。女性受験生数の増加も要因の一つではあるが、その合格率も27.4%と、全体の合格率よりも9ポイント近く高かった（合格率は、合格者数÷申込者数）。診断士業界にも、ようやくダイバーシティが広がりがつつあるようだ。

3 我々は満点ハンターだ

この変則的な試験日程は、我々にも無関係ではなかった。なぜなら今回の合格発表日は、前年より1ヵ月近く後ろ倒しとなっているにもかかわらず、原稿締切は4月20日。メンバーに何と伝えたらよいやら……。反発は必至だ。しかし、これが我々、満点ハンターの宿命なのだ。私は叫んだ。

「我々は、不可能を可能にする満点ハンターなのだ！ みんな、期待しているぞ！」

PCのマイクはミュートのままだった。

令和3年度の満点答案ハンタープロジェクト、開幕である。